

唐原子供神楽

神楽が息づく里で伝えられてきた舞を
継承し、繋いでいく

唐原神楽を

次世代に継承する

100年以上の歴史をもち、先人から受け継がれてきた唐原神楽を子どもたちに継承し、将来の担い手を育てること。また、神楽の盛んな地域からその技を学び、更なる発展を目指すことを目標に掲げ、平成24年度に地域づくり活動団

体として認定され、子供神楽の新たな活動の場が広がっています

現在、神楽講のメンバーは16名で、その内、8歳から13歳まで子どもは6名います。子どもたちが神楽を習い始めたきっかけは、地元の祭りで大人が舞っているのを見て「自分も神楽を舞ってみたい」という子が現れ、練習に来るうちに友だちが一人、また一人と増えていきました。

神楽を楽しんで覚えること

まず始めに習う演目は、御先に登場する猿田彦命(鬼)の相方である、天鈿女命こと「ホシヤドン」です。練習がはじまると最初は遠慮がちだった子どもたちも、舞いに集中していくのが解ります。覚えるスピードは違いますが、披露するのには約半年くらいかかります。次はいよいよ

よ鬼の練習です。どうしたら鬼らしく舞えるのか、腰の落とし方や、かぶりの振り方など大人の動作を見ながら何回もくり返し練習し、自分のものにしていく姿はたくましくもあり、大人の舞手にとっても刺激になります。練習を始めて4年目で、演目では御先、剣、宝満、神迎を舞えるようになりました。現在練習中の米舞や御子舞も順次披露する予定です。また、子どもたちはお囃子も練習しており、これからは子どもだけで神楽ができるようになるのが目標です。

子ども神楽を教えた頃は、とにかく神楽を楽しく覚えてくれたらいいと思っていたのですが、イベントなどで他の神楽講と接する機会が増えたおかげで、自然と挨拶や回りの方に対して感謝の気持ちも身に付くようになりました。

町内外のイベントで

神楽の魅力を発信

最近では町内外でのイベントなどを含め、少しずつ公演の参加も増えてきました。多くの場所で神楽を披露することで、1人でも多くの方に唐原子供神楽を知っていただきたいと思っています。

昨年の上毛祭では京築神楽子供体験講座が開催され、唐原子供神楽が神楽体験の指導を行いました。指導にあたってのコンセプトは、「神楽を楽しんでもら

うこと」衣装の着付、大蛇体験、鬼杖づくり、お囃子体験を中心に指導しました。この体験をきっかけに神楽舞になりたいという子どもたちが現れたら嬉しい限りです。

また、豊前市の京築神楽伝統文化会館で開催された「神楽の里フェスティバル」では1年間練習を重ねてきた「神迎」を披露しました。超満員の観客を目の当たりにし、子どもたちは緊張した様子でしたが、いざ舞い始めると神楽を楽しんでいるようで、最高の舞台を無事終えました。数々の公演を終える度に、子どもたちの成長ぶりに驚かされています。

今年の3月10日に、ふるさと手づくり村野外ステージで、上毛町の神楽講(成恒・友枝・唐原)全3団体が集結し、「子供神楽祭り」を開催しました。20数年以上前、私たちがまだ子ども神楽を舞っていた頃行っていた、とても楽しく勉強になったのを思い出し、子どもたちに少しでも舞う機会を与えられたらと町の神楽講でタッグを組み、一から計画して実施しました。来年も3月に開催予定です。

また、下唐原の集落全体で取り組む1年間の活動のメインイベントとして、2月10日に行われたどんど焼きでは、私たち「唐原子供神楽」が神を迎えるというこ

大切な貴船神社に

感謝の気持ちを込めて

毎年、12月末には1年間の感謝の気持ちを込め、子どもも大人も一緒に、いつもお世話になっている下唐原貴船神社の境内の整備、清掃を行っています。貴船神社は私たちにとってホームグラウンドであり、とても大切な場所です。来年も1月1日元旦に、家内安全や無病息災、五穀豊穰など地域の皆さんの思いを舞いに込めて新春奉納神楽を行います。こうやって神楽を舞えるのも、地元の方々の応援のおかげです。来年も精力的に活動していきますので、唐原子供神楽をよろしく願います。

